

本市の児童・生徒の学力の状況と いじめ・不登校について

【問合せ先】本市学校教育課 指導グループ Ⅳ(23)5111(内線5332)

子どもたちには、本市で教育を受ける中で、「豊かな心」「確かな学力」「健康やかな体」をしっかりと備えた人間へと成長しながら、将来の夢に向かってほしいと願っています。

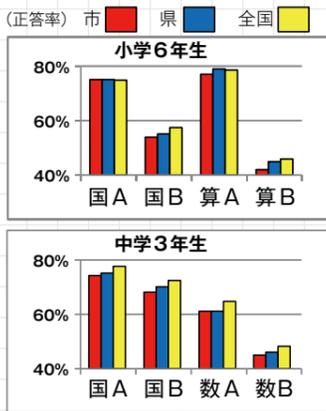
そこで今回は、確かな学力、豊かな心の面から本市の児童・生徒の学力の状況といじめ・不登校についてお知らせします。

本市の子どもの学力の状況

本市では、毎年度のような学力調査を実施しています。

- ① 鹿児島学習定着度調査「1月」
小学5年生、中学1・2年生を対象
- ② 標準学力検査(NRT)「4月」
小学2年生以上の全児童・生徒を対象
- ③ 全国学力・学習状況調査「4月」
小学6年生・中学3年生を対象

①②において、本市の児童・生徒の学力は、県や全国とおおむね同じ結果となっています。ここでは、③の結果について説明します。



◆ 全国学力調査
この調査は、国語・算数(数学)の2教科において、A問題(知識を問う問題)・B問題(活用力を問う問題)で実施しています。

【分析結果】 小学6年生

国語のA問題・B問題、算数のA問題においては、おおむね全国平均並みです。算数Bについては少し低い結果となっています。平均正答数でいえば、全11問中、全国の5・1問に対して本市は4・7問というわずかな差でした。

◆ 中学3年生
国語・数学共に全国平均をやや下回りました。国語Aでいえば、平均正答数は全32問中、全国の24・8問に対し

て本市は23・8問というわずかな差でした。

小・中学生共に、基礎・基本的な知識は身に付けていますが、活用する力については、もう少し努力が必要であるといえます。

◆ 全国学習状況調査

この調査では、子どもたちの学習への関心や意欲、生活の状況について調査しています。

「学校に行くのは楽しいですか」

「楽しい」と答えた小学6年生は、全国が86・3%、本市が90・5%、中学3年生は、全国が80・9%、本市が88・4%となっております。全国に比べて高くなっています。

「ボランティアによく参加していますか」

小学6年生は、全国が58・4%、本市が70・8%、中学3年生は、全国が70・6%、本市は74・4%がよく参加していると答えており、全国に比べて高くなっています。

「自分には良いところがあると思いますか」

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した小学6年生は、全国が77・9%、本市が71・5%、中学3年生は、全国が70・7%、本市が67・9%と、全国に比べてやや低い結果となっています。

このことから、本市の子どもたちには、もっと自分の良さを気付かせ、自信を持たせることが大切であるといえます。

◆ 「自己肯定感を高めるために」

さまざまな調査から、「自分の良さに気付くことのできる子どもは、学力が高い傾向にある」といわれています。これを踏まえ、本市では、「100点チャレンジ」という取り組みを推奨しています。これは、テストが終わった後、問題の解き方を学び合い、100点が取れるまで何回も同じ問題に取り組みせるものです。そうすることで子どもたちに「分かった」「できた」という自信や、「自分もやればできる」という自己肯定感を育むことができるようになります。

また、学校では「学年×10分+30分以上」という目標に向かって、毎日の家庭学習に取り組みさせています。具体的には、小学6年生は90分以上、中学3年生は120分以上ということになります。子どもが自主的に家庭学習に取り組み、達成感を感じることができれば、この取り組みも自己肯定感を高めることにつながります。

家庭でも、こつこつ家庭学習に励んだり、進んで手伝いをしたりしていることを大いに褒めるなどして、子どもが「自分も頑張ればきっとできる」と

いった自己肯定感を持てるようにつけてください。

「この子はちゃんとできるはずだ」と信じ、見守ること。そして、それが伝わる関係を口頭から子どもとの間にしっかりと築いておくこと。そんな関係ができていれば、たとえ些細な褒め言葉であっても、子どもに自信を持たせることにつながります。

本市の「いじめ」は減少傾向に

本市で平成28年度に認知されたいじめの件数は593件で、前年度の認知件数より5%(31件)減少しています。

いじめの内容としては、からかいや冷やかしの事案がほとんどで、けがをさせたり、命に関わったりするような重大な事案は発生しませんでした。件数的にも、国や県と比較して少ないといえますが、一方で年間500件を超えるいじめと思われる事案が発生している現実を重く受け止めなければなりません。

また、県外では、暴力や精神的ないじめ、教師からの厳しい叱責などが原因で、子どもが自ら命を絶つという事案も発生しています。

本市では、子どもたちが安心して楽しく学校生活を送れるように、次のような取り組みを継続しています。

◆ いじめのない学校づくりの日

毎月1日を「薩摩川内いじめのない学校づくりの日」と定め、全ての子どもたちに4項目についての「いじめアンケート」を実施しています。

- ① 学校は楽しいか?
- ② いじめられていないか?
- ③ いじめを見たことはあるか?
- ④ 友達を傷つけていないか?

このアンケートの結果によると、「学校は楽しい」と思っている小学生が約99%、中学生が約98%を占め、残り1~2%の子どもたちが「学校は楽しくない」と感じているようです。理由は、友人関係、学力不振、教師とのコミュニケーション不足などさまざまであり、悩んでいる子どもたちに応じて、個別の指導を心掛けています。

また、毎月1日は教職員にとっても、「これまでの自らの指導は適正だったか」を振り返る日となっています。子どもたちの実態を把握し、気になる回答があれば、速やかに聞き取りや教育相談を行い、解決を図っています。

◆ 道徳教育、児童(生徒)会活動の充実

小・中学校では、児童会や生徒会による「いじめのない校風づくり」宣言を通して、子どもたちが話し合いなどを行って、自らいじめ根絶に努めています。

また、道徳教育の充実を図り、「いじめに関する授業」や「命の大切さ」を考える授業を実施しています。

さらに、年に1回、保護者向けにもいじめに関するアンケートを実施することで、家庭との連携を図っています。いじめの問題について家庭でも話し合っていたり、学校と協力しながらいじめを1件でも多く発見し、全て解決できるように、協力をお願いします。

本市の「不登校」は 全国・県の約半分以上……

不登校の児童・生徒の出現数は、全国、県と比較して本市は大変低い状況にあります。

平成28年度における不登校児童・生徒出現数が、全国や県では千人中約14人であるのに対して、本市では約6人であり、半分以上となっています。本市の不登校の人数は、本市が全中学校区で小中一貫教育を開始した平成20年から減少し続けており、この取り組みが功を奏していると考えられます。小学生は中学生にあこがれや親しみを持ち、一方、中学生は小学生への思いやりやリーダーシップの発揮によって自信を持つことができます。さらに、教員は互いの指導を学び合うことで、より指導力を高め、交流活動を通して子

どもたちを深く理解することができま

す。このような取り組みを通して、中学校生活での友人や先生に対する不安感が解消されるとともに、多くの教員の見守りの中で、子どもたちが安心して学校で過ごせる環境がつけられています。

また、中学校への心の教室相談員やスクールソーシャルワーカーの配置、適応指導教室「スマイルルーム」の開設などにより、不登校の子どもや保護者に対し、日常的に親身になって心のケアをするように努めています。このほか、毎月1回少年自然の家で行われる「リフレッシュin 寺山事業」では、不登校の子どもたちを中心に、自然体験や工作などを通して、他校の子どもたちとの交流を図っています。

今後も、不登校の解消に向けて学校と家庭、地域社会がしっかりと連携しながら、速やかに丁寧な対応ができる体制づくりを進めていきます。

いじめ・不登校に関する相談窓口

◆ 市少年愛護センター

☎080(8)369(5)529

*土・日曜日、祝日を除く8時30分

〜21時受付

◆ 24時間子供 SOSダイヤル

☎0120(0)783110

*全国どこからでも相談できます。